平成31年度　都立学校・学校経営シート

校章	都立農産高等学校	全日制課程
	食と緑と農を創造する学校	

基本情報				
所在地	〒 124-0002 葛飾区西亀有一丁目28番1号	電話番号	03-3602-2865	
アクセス	(1) JR亀有駅南口下車徒歩15分 (2) 京成電鉄お花茶屋駅下車徒歩20分 (3) JR亀有駅タウンバス葛飾区役所行上千葉砂原公園下車徒歩2分			
学科	農業科(園芸デザイン科、食品科)			
在籍生徒数	園芸デザイン科204人(男子96人、女子108人) 食品科209人(男子75人、女子134人)			
教育課程の特徴	50分6限授業、習熟度別授業(英語) 少人数編成授業(国語、数学、家庭、農業)			
ホームページ	http://www.nousan-h.metro.tokyo.jp/	自律経営推進予算 30年度(単位:万円)	3,328	
その他	創立71年。 地域貢献活動が盛ん。	校服	制服	男女ともブレザー(紺・紫紺 女子はスラックスあり

基本情報															
進路	実績	四年制大学	11%	短期大学	1%	専門学校	43%	就職	42%	その他	3%				
	特徴	充実したキャリア教育、インターンシップ支援を推進し進学・就職どちらにも対応。													
主な部活動		バスケットボール部、サッカー部、硬式テニス部、パン加工部、園芸部、茶華道部、太鼓部、造園部、醸造部													
学校評価		生徒授業満足度:71%、保護者満足度:95%													
入学者選抜情報	募集人員	推薦:園芸デザイン科21人、食品科21人 一般:園芸デザイン科49人、食品科49人													
	応募倍率	29年度入学生	推薦	男子	2.52	30年度入学生	推薦	男子	1.57	31年度入学生	推薦	男子	2.42		
				女子	3.29			女子	2.86			女子	1.97		
			学力検査	男子	1.31		学力検査	男子	0.92		学力検査	男子	1.06		
				女子	1.24			女子	1.24			女子	1.07		
	その他の特徴	文化スポーツ等特別推薦。女子バスケットボール女子3名													
主な学校行事		体育祭・意見発表会(5月)、農産祭(文化祭11月)、修学旅行(2年)、体験入学(7月、10月)													

目指す学校	「食と緑と農を創造する学校」を目指し、農業人・産業人として必要とされる専門的知識・技能を身に付けさせる教育活動全体をとおして農業分野に対する志を高め、次世代の農業を担う「将来へ向けて一歩を踏み出すことのできる生徒」の育成を図る。

	今年度の重点目標	今年度の取組と自己評価
目標①	**①授業力を向上し、基礎学力の確実な向上を図る。** ・朝学習時間の計画的活用や個別指導の充実により、基礎・基本の徹底を図る。 ・生徒が主体的、対話的に活動し、考える授業づくりを推進し、深い学びを達成する。 ・都立専門高校技能スタンダードを達成させる指導を組織的計画的に実施する。 ・研究部を中心とした研修会や研究授業等の授業研究に、年間を通して計画的に取り組む。	●学校評価では「教え方や説明を工夫」で94%の生徒をしており、学習指導には一定の成果がみられた。しかし、「自ら広く様々なことを学ぼうとしている」では、否定的回答が37%に達しており、生徒の学びに向かう姿勢を育てていく必要がある。 ●2学期より、定期考査前に学びの場としてアイリスカフェを設置し、外部指導による学習支援を行った。合計13日間の実施で、のべ80名が利用した。参加者には成績上位者もおり、生徒間で教えあう姿も見られた。校内に学習ニーズに応えて、来年度も継続する。 ●日本農業技術検定2級合格1名、日本農業技術検3級合格率82%であり、アグリマイスター顕彰制度では、金1名、銀4名であった。造園技能士合格者は2級1名、3級16名、フラワー装飾技能士3級は12名、食品衛生責任者は41名が合格した。 ●今年度は、生徒に考えさせる質問や主体的学習場面の設定をテーマとして、研究授業、研究協議を研修部中心に年間36回以上実施した。全日制と定時制間の授業見学も複数回実施している。研究授業、研究協議の成果は、研究紀要にまとめ発行する。
目標②	**②地域や社会に貢献する教育活動を推進する。** ・農業実習にGAPやHACCPを取り入れ、工程ごとのリスク管理を徹底させる。 ・学習活動にSDGsの視点を取り入れ、各教科での横断的な取組について研究する。 ・教科「人間と社会」や農業科目において、自治体や地域の各種団体との連携した活動に取り組む。地域貢献活動をとおした探究活動を行い、その学習成果を発表する。 ・地域に根ざした農産高校の存在を広く区民・都民に周知する。	●GAPは、6月にサトイモ、トマト、ねぎの3品種でJGAPの認証を受け、12月には継続のための審査を受けた。HACCPについては、HACCP教育を食品科のすべての科目で取り入れ、整理整頓とともに安全衛生管理の徹底を進めている。 ●5月の菖蒲まつり、亀参まつりでの生産品の販売、6月の曳舟川親水公園の花壇つくり、7月の水元公園土手のアジサイの植栽管理、10月の葛飾区産業フェアでの生産品販売、11月の荒川区江戸東京野菜継承事業への協力、日暮里マルシェでの三河島菜の販売等、地域からの要請に応えて多くの地域連携を行ってきた。 ●学校農業クラブ全国大会農業鑑定大会において、生徒一名が優秀賞を受賞した。また、全国パンコンクールでは、生徒2名が第2位、第3位となった。専門科目の学習の成果を生かした部活動等が成果を上げている。
目標③	**③個に応じた教育を実現する組織的な学校経営を推進する。** ・グランドデザインの作成により、各科の育てる生徒像、身に付けさせる力を明確にし、カリキュラムマネジメントを組織的に実施する体制を確立する。 ・特別な支援を必要とする生徒に対して、全教職員の共通理解の下に、保護者や関係機関と連携、協力した支援や指導を行う。 ・自他の生命や人格を尊重する態度をはぐくむ指導をより一層充実させる。	●グランドデザインを作成し、新学習指導要領に対応した教育課程の編成に着手している。 ●各学年に特別支援教育コーディネータを1名ずつ指名し、養護教諭とコーディネータによる教育相談委員会を7月より隔週定例開催した。外部との連携が必要な事例については、ユースソーシャルワーカー(以下、YSW)の派遣を受けてケース会議を開催した。 ●友人間で相手の気持ちを考えない発言や行動があり、数件の特別指導を行った。生徒の心情を聞き取り、生徒に考えさせ、反省を促す丁寧な指導を行って、生徒の発言や行動に変容を見ることができた。 ●生命尊重の教育は、折に触れて行っている。来年度は、より一層、組織的、計画的に生命尊重や人権尊重教育を推進するために、文科省の人権教育研究開発校の指定を受け、継続的に生徒の心を育て教育に取り組んでいく。

数値目標	今年度の数値目標の内容	28年度		29年度		30年度		今年度		32年度	33年度	34年度
		目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	目標	目標
目標①	生徒による学校評価・授業評価の肯定的要素を90%にする。	90	79	90	71	90	71	90	84	90		
目標②	地域関連事業を年間100回以上実施する。	140	100	100	105	100	100	100	103	100		
目標③	研究授業や授業見学への参加者を年間のべ200名以上とする。	－	－	－	－	－	－	200	252	250		